

富士中だより

三田市立富士中学校 学校だより
平成30年 2月 1日 2月 第12号

学校教育目標 「確かな学力と豊かな心で、たくましく生きる生徒の育成」

安全・安心の学校 開かれた学校 あたたかい学校 真・善・美



あきらめない心

何回転んでも、また立ち上がった

西村篤巳



「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあたたかさ 俵万智
大寒を過ぎて何年かに一度という大寒波… 朝校門で出逢った地域の方から「寒いですね」と声をかけていただき、「寒いですね。犬は元気そうですね」と。何気ない時候の挨拶。こんな会話が落ち着いてできる幸せを感じています。地域の方々が散歩しながら、通勤途中で、富士中や富士中生を見守っていただいている。この地域の良さであり、あたたかさだと身に染みしています。家庭で学校で地域で、同じ状況を感じながら何気ない会話ができる関係・・・あたたかいですね。感謝ですね。

1月31日夜、皆既月食はどうでしたか？国立天文台から『赤銅色に染まる月を見よう』と広報が。あいにくの曇り空…。寒い冬ならではの澄み切った夜空を楽しめる日もありますが…。富士中では、学年まとめの考査、3年は受験、卒業へまっしぐらの2月のスタートです。

2年スキー実習 鉢伏高原へ<1/15(日)~1/17(火)>

2年 スキー実習 学年目標
絆-大絆- みんな大好き♡
*あいさつ、返事をしっかりしよう。
*相手の気持ちを感じ取ろう。
*時間を意識して行動しよう。

2年生の川柳を辿っていくと、スキー実習の様子がよく伝わります。「山の中 左右に広がる 雪景色」バスの車窓や降りた後、林間コースで。どこもかしこも、雪…「重かった スキーブーツと スキー板」で、「三田より とても冷たい ハチ高原」の中、実習スタート。「雪の上 みんなきれいに こけている」かと思えば、「板の跡 転んだ後は 傷の痕」あともいろいろ… 実習中、生徒達は指示をよく聞き、連なってきれいに安全に滑っていました。「白銀の 道駆け下りる 龍が如く」グループもアップルも。かと思えば「林間の 景色に夢中で木に衝突」オットットー！「リフト乗り 風に揺られて 大騒ぎ」それもそのはず「グラグラと リフトが揺れるよ グラグラと」でホンマに「リフトがね 止まった時は 怖いよね」。実習も後半は「気持ちよく ハチ高原を すべり行く」ついつい調子が出て「ブレーキが 上手くできずに 暴走中」の人もいて。「滑ること 楽しかったら 満足で」そして、「白い世界 斜面を滑った 3日間」でした。「楽しいね みんなで挑んだ スキーだね」「スキーをし みんな大好き なれたかな」。学んだことも多かった。「あきらめない どんなことにも 大切だ」「ありがとう お世話になった 人たちに」 そうそう、実習の開始前から外でたくさんの方が遊んでいたね。朝、凍結した雪の中でも…「雪合戦 雪がかたくて 痛かった」



最初上手いかずスキーが嫌になった生徒も。でもどの生徒も上達し、「最後はヒューンと滑れるようになった」「できなかったことができるようになってとても楽しかった」「急な斜面も風に乗って滑れた時はとても気持ちよかった」。上達したのはインストラクターから優しく、丁寧に教えてもらったおかげと感謝し、「話をしっかり聞いて、めっちゃ滑れるようになった」と。「怖い場所も『大丈夫』と言い聞かせながら滑ることができた」「転んで起き上がることを繰り返す度に自分に自信を持つことができた」と、『強い心』『自尊感情』の高まりにも繋がる大切な実践。周りの方に感謝の気持ちを大きな声で言えた。何事も基本が大切で頑張り次第で変わると学び、お互いに「がんばれ」と声をかけ合い、最後の滑りはみんな笑顔。「みんなが助け合うことによって空気がこんなに変わるんだと感じた。笑顔が溢れてすごく楽しいスキー実習」と振り返った生徒。今後活かすこととして、「人の気持ちを“感じる”」「周りを見て・自分で考えて行動する」を始め、具体的なことをたくさん考えていました。大自然の中で人との出会いを通してスキーが上達し、仲間の良さも見直しながら、根っこがしっかりしたなと感じた3日間。3年生での行事や進路に、社会で通用する力へと高めてほしいと願います。そして、スキー実習だからこそその感想が・・・
「何回転んでもまた立ち上がることが大切。失敗することはいけないことやない。何回もこければ上手くなるんだ。すぐにあきらめないでまた挑戦することが大切。これからはあきらめないで、また立ち上がっていきたい」「受験勉強の時に、踏ん張って最後の最後まであきらめないで挑戦したい」



ご存知ですか？全国学校給食週間<1/24~1/30>



『まごわやさしい』『三田のふるさと』『おもいで献立』『カムカム献立』… 何かというと、給食の献立名です。ワカサギの唐揚げ、クジラ肉のケチャップ煮、三田牛すき焼き黒豆ごはん、母子茶などが、1月の給食メニューに。この期間に限らず、今では三田産の野菜や米など、給食でいただく機会が増えました。新鮮で、しかも地産地消ですね。

三田市で初めての完全給食は藍小校区で。60年前になるそうです。子ども達の体位の向上を目指し、みんなと一緒に食べることでクラスの和を大切にすることを育てたいとの願いで始められたそうです。自校方式と言われ、600名近い人数分を主に4人で作り、片づけをされていた様子が三田市「学校給食の歴史」に掲載されています。当時人気のメニューは脱脂粉乳を使ったシチューやカレー汁。焼きそばも人気だったようですが「作るのが難しかった」と当時の調理師さんの言葉。燃料は「薪(まき)」中心。炒める、煮込むなど、手間がかかり、愛情が注がれていたのです。その後、給食継続の署名活動や自校方式からセンター方式への移行など、多くの方々の願いや要望、支援で現在に続いています。

多くの方の思いや取り組みのお蔭で開始当初の願いが引き継がれ、今、栄養バランスが良くて、おいしく楽しく給食が食べられる。本当に感謝しかありません。

《今日(2/1)の献立:ごはん、マーボー豆腐、春雨の酢の物、キンカン、牛乳》美味しくいただきます！

オープンスクール終了!

多数の参観ありがとうございました!

～ありのままの中学生の姿を実感していただく場～

普段通りの授業で、ありのままの富士中生の姿を見ていただきました。小学校6年生対象に入学説明会と同時に体験授業も実施。4月の出会いが楽しみです。雪が降り積もる中、PTA 役員や保護者ボランティアの方々に運営でご協力いただきました。心が大きく揺れ動く中学生の時期だからこそ、保護者の力が大きな存在になります。PTA 活動も、学校や生徒達に大きな力となり、地域全体でも重要な存在です。できるときに、できることで、ぜひお力添えください。

3年生 ガンバレ!! 自信を持って! 大丈夫!



いよいよ入試…。私学願書の下書き、清書、出願。受験票も手元に届き、面接練習真っ最中。2月10日に私立高校の試験。公立の推薦・特色選抜、そして3月9日に卒業式、3日後に公立高校一般入試。それぞれの道へ、それぞれのやり方で挑戦を続ける3年生。こんなときこそ、共に歩んできた仲間の思いと共に、あきらめない心で、平常心で挑んでほしい! 私達おとなは心のサインをしっかり受け止めて、見守りたいですね。

2月の主な予定

日	曜	行事予定
1	木	富士中校区児童・生徒交流会 生活アンケート
2	金	
3	土	
4	日	
5	月	全校集会
6	火	
7	水	My Life Day
8	木	
9	金	
10	土	私立入試
11	日	↓ 建国記念の日
12	月	
13	火	PTA 運営委員会
14	水	MLD
15	木	公立推薦・特色入試
16	金	/一残業一
17	土	
18	日	
19	月	3年学年末考査
20	火	公立推薦・特色入試発表
21	水	生徒総会 1・2年考査 1週間前 特別支援学校入試 MLD
22	木	富士中校区連携交流会<富士小>
23	金	専門委員会 PTA パトロール
24	土	
25	日	
26	月	
27	火	学校地域運営協議会
28	水	1・2年学年末考査<3/2> 特別支援学校入試発表 MLD

【2月 最終下校 17:30】

《給食センター2/26 給食費引落とし日》

佐藤洋平先生<英語科>研修終了

教員採用前スクール体験として、1/22~24研修で来校。感想一部。生徒が一生涯懸命勉強しており、授業中に何もしていない生徒がいなかったのが驚きでした。中学生らしい腕白な面も見られ、生徒とのふれ合いがすごく楽しかったです。4月から教師として働く気持ちに実感が持て学ぶこと一杯でした。

吹奏楽アンサンブルコンテスト県大会(1/20) 銀賞受賞

1月19日（金）実施「生活アンケート」結果！



○1月19日（金）実施の「生活アンケート」の質問項目と集約の結果は以下の通りです。

生徒の自尊感情を考える

今回の生活アンケートは、生徒一人ひとりの“自尊感情”について調べました。過去2年間の資料のデータも参考に、今の学年の生徒が前年度はどうであったか、経年比較もしてみました。

自尊感情とは自分自身を好きだという気持ち、自分を大切に思える気持ちのことで、心身の健康を保つために必要なものです。自分自身を振り返り、現在の自己を見つめ直すことにより、自尊感情を高めるきっかけにしてほしいと考えています。

◇アンケートの結果 *「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答率（%）

質問項目	全学年		
	H29	H28	H27
1. 自分には、良いところがあると思う	79	74	70
2. 自分には、頑張っていることがある	92	88	85
3. 自分は、まわりの人の役に立っていると思う	69	66	58
4. 自分は、まわりの人から大切にされていると思う	80	73	75
5. 自分は、まわりの人から認められていると思う	72	69	64
6. 自分の気持ちを、まわり的人是わかってくれると思う	79	72	77
7. 自分の思いや考えを、まわりの人に遠慮なく伝えることができる	80	73	70
8. 自分のことが好きである（気に入っている）	66	63	56

生きる力の基盤となる自尊感情を高めるには、成功体験や成就感、家族に愛され周りの人に大切にされていると感じる気持ち、みんなは自分のことを認めてくれる、自分の意見に共感してくれると感じる気持ちや自己有用感などが大切になります。



◇8つの質問項目から、概ね次のようなことがわかると思います。

1. 自己肯定感、自己容認の度合い…自分の長所を理解している。こんな自分でもよいと感じている。
2. 前向きに生きる姿勢や夢中になれるものがあるか…やればできるという感情。達成感、成就感や成功体験の度合い。
3. 自己有用感の度合い…家族や周りの人の役に立っているという感情。存在感。
4. 愛情の欲求が満たされているか…家族から愛されている、みんなに大切にされているという感情。
5. 承認の欲求が満たされているか…みんなは自分のことを認めてくれる、見てくれているという感情。
6. 共感の欲求が満たされているか…みんなは自分の意見に共感してくれる、わかってくれるという感情。
7. 安心して自己表出ができるか…自信や信頼感の度合い。
8. 自己受容の度合い…総合的な自尊感情。「自分のことが気に入る」という感情には、「とてもよい（very good）」か「これでよい（good enough）」があり、前者は優越性や完全性の感情と関連し、他者からの優越という意味合いを含んでいる。それに対して、後者には優越性や完全性の関係は含まれず、自らの基準に照らして自分を受容し、素朴に好意を抱くという意味合いが示される。「自らの基準を持つ」ということは、今まで生きてきた中での自分を振り返り、自分を受け入れている状況を表している。中学生のこの時期には、後者をより大切に観ておきたい感情といえる。



インフルエンザの感染が拡大しています。マスク着用、手洗い、うがいなど、十分注意してください。



【アンケートの結果から】 ※本年度のアンケート結果・過去のアンケートとの比較より

○全体としては、どの項目においても向上しました。生徒達が他者との関わりの中で、自分を見つめ、認め、自尊感情を高めていっている傾向が伺えます。昨年同様「頑張っていることがある」（92%）がどの学年でも高く、「役に立っている」（69%）と思っている生徒が少ない傾向が変わりません。今後も学校での諸活動や地域での貢献活動などを通して、人の役に立つ喜びを実感させる機会と場を設けることで、生徒たちの自己有用感を高めていきたいと思えます。

また、「自分のことが好き（気に入る）」（66%）は、徐々に向上しています。3年生では昨年度（2年）から18%の向上、2年生では6%の向上。様々な体験や関わりを通じて、生徒が成長と共に自らの基準が持てるようになり、その基準に照らして自分を受け入れ、自分に好意を抱くことができるようになっていっていると思えます。自尊感情をより高めていくために、今後も、同年代やおとなとの関わり方が大切になると考えます。

- 1年生は、「頑張っていることがある」の項目が一番高く、「大切にされている」「自分の思いや考えを遠慮なく伝える」「気持ちをわかってくれる」が続きました。周りに自分の思いを伝え、自分の気持ちをわかってくれる、大切にされていると感じている傾向が伺えます。しかし、その反面、「役に立っている」は少し低い数値です。「認められている」とあわせて、今後の諸活動を通して、人の役に立っていることを認め、褒め、喜びを実感できる機会を増やしていきたいと思えます。
- 2年生は、昨年の1年生当時と比較すると、各項目でかなりの伸びがありました。「思いや考えを遠慮なく伝える」(+25%)、「大切にされている」(+18%)、「認められている」(+14%)、「気持ちをわかってくれる」(+13%)、「役に立っている」(+12%)、「自分に良いところがある」(+10%)、「頑張っているところがある」「自分が好き」(+6%)。

入学から積み重ねた一日一日、中学校の1年間のサイクルがわかり、部活動でも生徒会でも中心となって活動するようになり、たくさんの経験や責任が、生徒の成長に大きく関わったのだと思えます。直前に行われた『スキー実習』でもどの生徒もよく頑張っていました。機会や場、自己の振り返りや先を見据える眼、多くの要素が成長を後押ししてくれたのでしょう。「自分のことが好き」はまだ低い数値ではありますが、前年度より6%の増加。一人ひとりが大切にされ、成功も課題もあって、周りとの関わり方を大切にしてきた学年集団であることがうかがえます。意見の食い違いやトラブルも、自分達でどうしたいのか、どうするのかを解決策を見つけながら成長し続けてほしいと思えます。そして、今後も、よく頑張ったところを認め、褒め、励まして、「これで良い」と思える『自分づくり』を支えていきたいと思えます。

- 3年生は、比較的自尊感情が高い傾向の学年として、一人ひとりが大切にされてきた学年でした。昨年と比べても、全体的に向上しています。学校の中心として頑張った行事や部活動、生徒会活動など、様々な場面で認められ、自分を高めることにつながったと考えられます。「良いところがある <7%↑アップ>」「気持ちをわかってくれる <8%↑>」「自分のことが好き <8%↑>」などが顕著な向上でした。気になるのは、「認められている <4%↓>」の数値が下がったことです。昨年度が高い数値でしたが、進路選択や学習の評価などで、「頑張っている割には認められていない」と感じる場面に出会って来たのではないかと思います。月々の生活アンケートでの悩み等は、進路関係がほとんどで、生活についての悩みを上げる生徒がこの一年間ほとんどありませんでした。今後も自分や周りの人を大切に、自分が大切にされていると気づきながら、進路獲得、卒業、新しい社会へと繋がっていくよう見守り、支えていきたいと思えます。

○どの学年も「愛情・承認・共感の欲求」が満たされ、充実した学校生活を送っていると考えられます。総合的な自尊感情である「自分のことが好き」の数値が、学年を重ねるごとに高まっていくのが学校という集団の特徴です。学習の積み重ね、学級や学年活動、学校行事に生徒会活動、部活動、さらには地域貢献活動などを通して、人の役に立つ喜びを実感できる機会と場を設けることで、生徒たちの自己有用感が高まり、自尊感情が高まっていくのだと考えます。

頑張っている富士中生に、引き続き、応援や声かけなどをお願いします。